

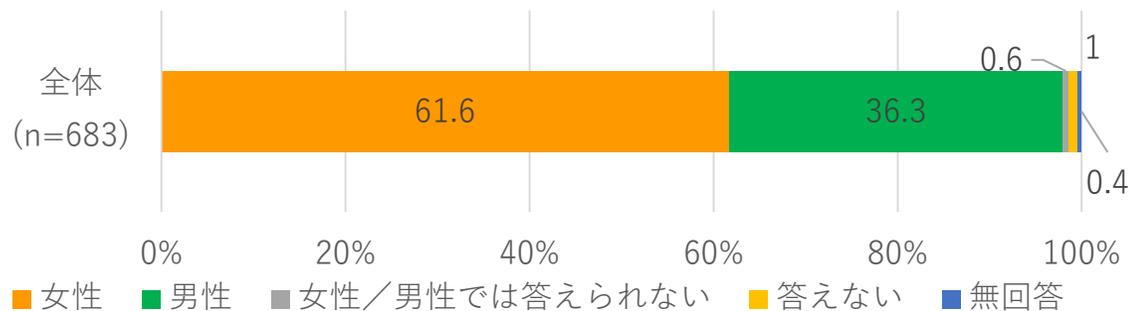
# 男女共同参画に関する市民 アンケート調査結果について

	一般	若年	小中学生
調査対象	枚方市に居住する23歳以上の男女2,000人	枚方市に居住する16歳～22歳の男女2,000人	・市立小学校5年生 ・市立中学校2年生
調査期間	11月11日～11月30日	11月11日～11月30日	11月1日～11月30日
調査方法	郵送による調査票の配布、郵送回収またはインターネット回答	インターネット回答URL及びコードを印字したハガキの配布、インターネット回答	学校を通じて児童生徒のタブレットへアンケート調査案内を配信、インターネット回答
回収数 (回答率)	683 (有効回答数680 紙425、Web258) (34%)	340 (17%)	小学生 1267※ 中学生 875※

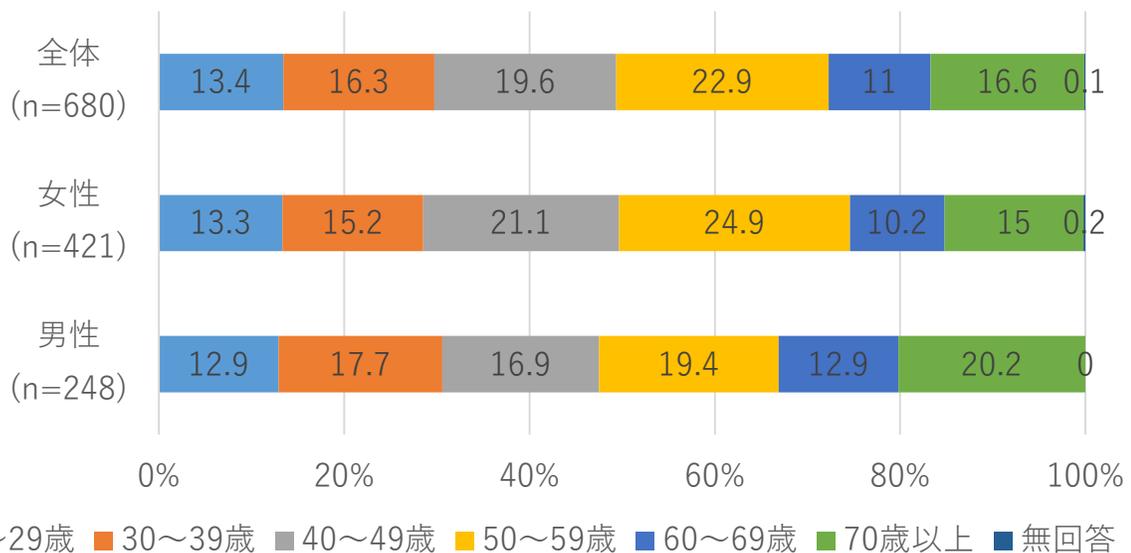
※自由回答形式のため回答率は算出できない。<sup>1</sup>

# 回答者の属性

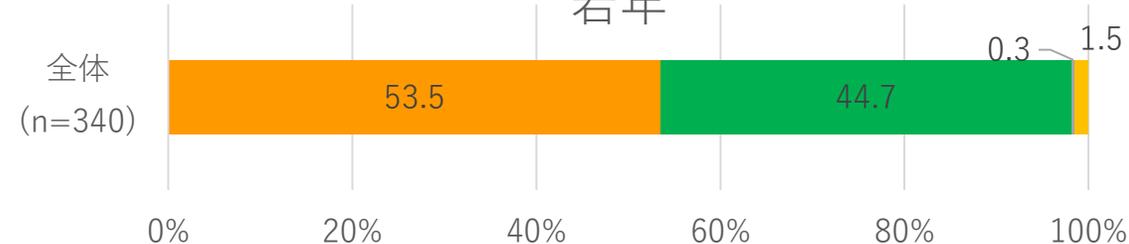
## 一般



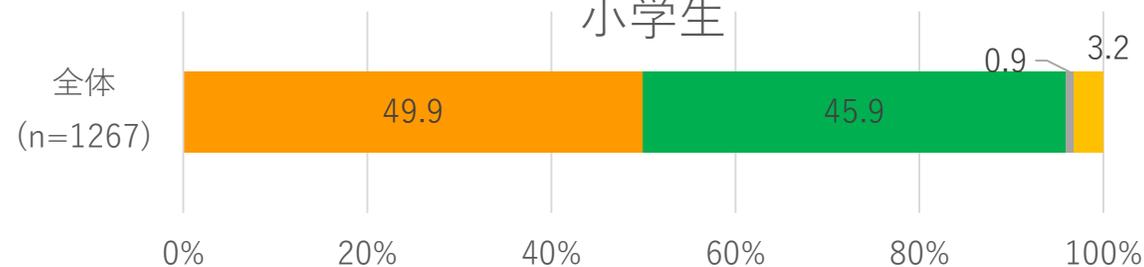
## 年齢



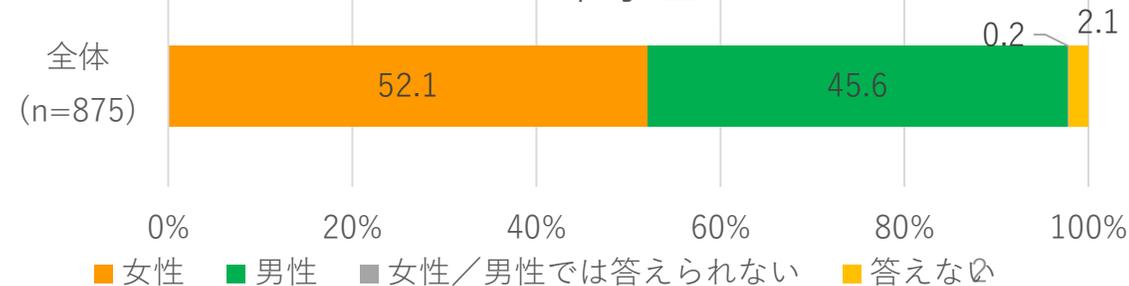
## 若年



## 小学生



## 中学生



# 調査項目

---

- ・ 男女の平等感と役割分担について (一般・若年)
- ・ 家庭生活（子育て・介護）について (一般・若年・小中学校)
- ・ 職業生活について (一般・若年・小中学校)
- ・ 仕事と家庭などの関わりについて (一般)
- ・ 暴力・人権について (一般・若年・中学校)
- ・ 困難な問題を抱える女性に関する法律について (一般・若年)

# 主な調査結果

---

## 男女の平等感について

- ・男女が平等であると回答した割合が一番多かったのは男女とも「学校教育の場で」で、男性57.3%、女性49.6%であった。最も割合が少なかったのは男女とも「政治の場で」で、男性12.5%、女性2.6%であった。（一般問1）
- ・職場生活において平等であると回答した割合が一番多かったのは男女とも「研修（機会・内容）」で、男性72.2%、女性59.9%であった。最も割合が少なかったのは男女とも「管理職への登用」で、男性39.5%、女性25.4%であった（一般問8）
- ・将来、仕事において、組織の意思決定ができる職（経営者や組織の管理職）になりたいと思うかという質問に対して若年の男性49.3%、女性31.3%がやりたいと回答した。高校生の女性は52.2%が「わからない」と回答した。（若年問4）

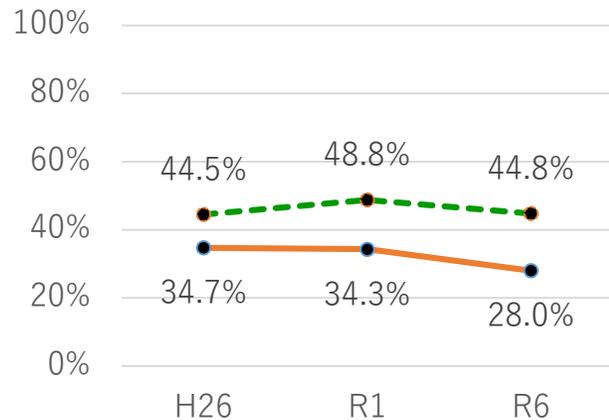
## 【一般】

問1 次の(1)～(8)の分野で、あなたは、男女がどの程度平等になっていると思いますか。

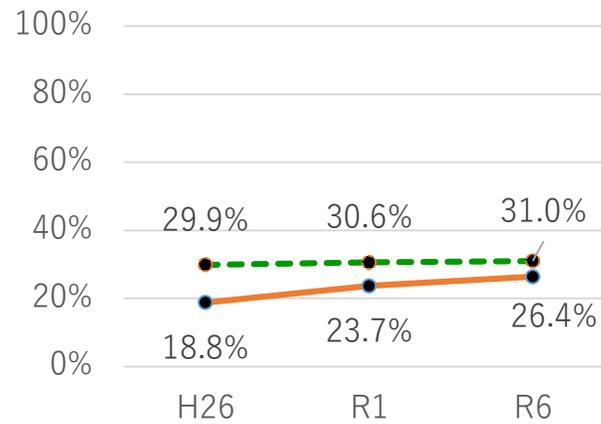
男女の平等感について、「平等である」と回答した人が多かった項目は「学校教育の場」であった。どの項目においても「男性優遇」が「女性優遇」よりも多くなっており、特に「男性優遇」だと考えられている項目は「政治の場」であった。

### 「平等である」と回答した人の割合

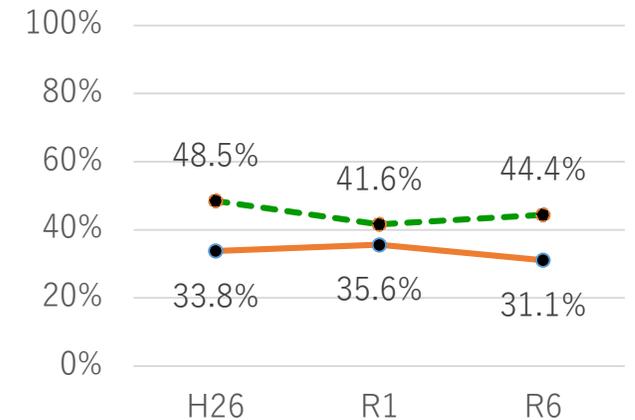
(1) 家庭生活中で



(2) 職場の中で

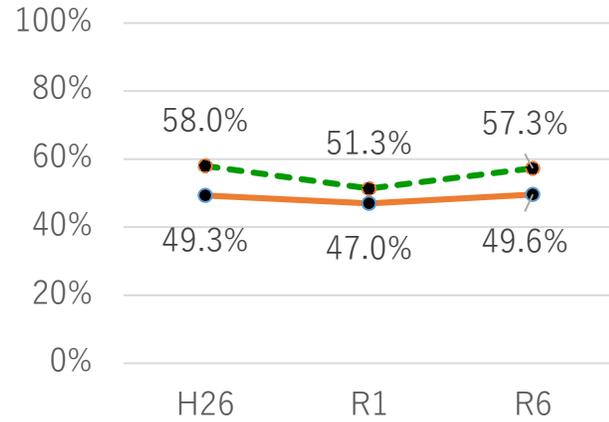


(3) 地域活動の場で

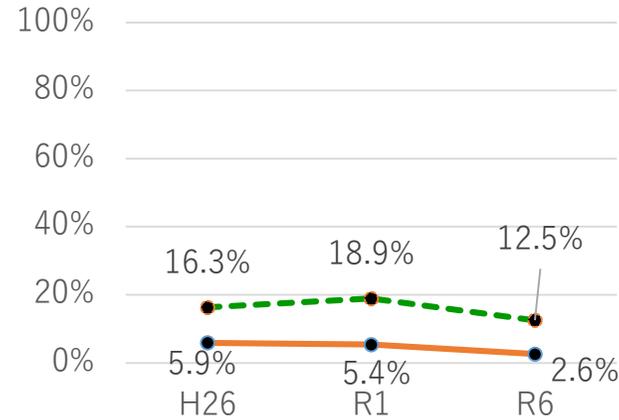


男性 n = 248  
女性 n = 421

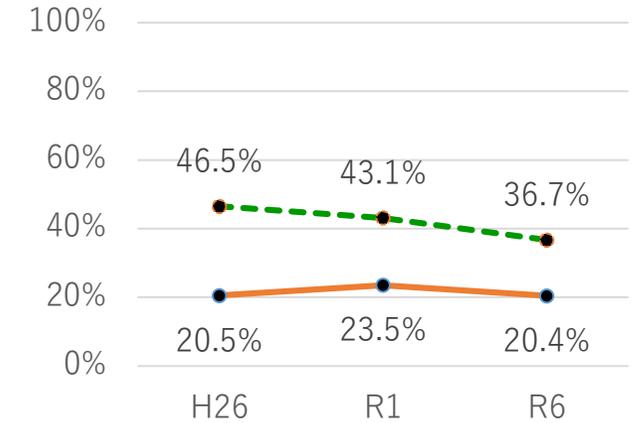
(4) 学校教育の場で



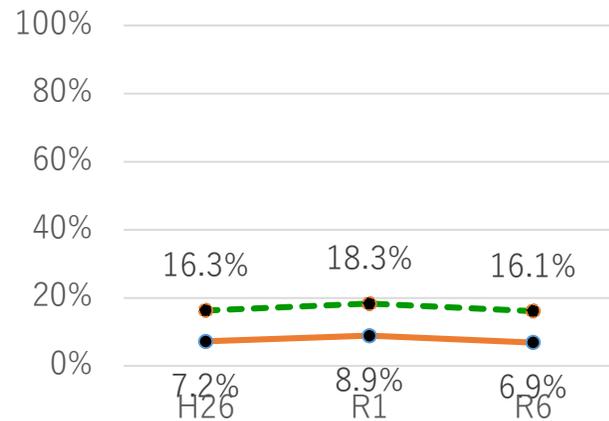
(5) 政治の場で



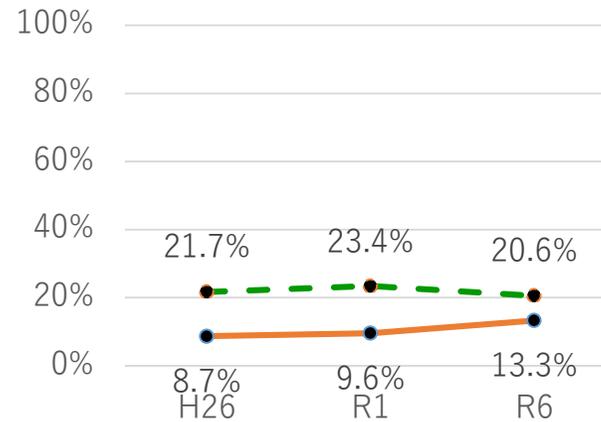
(6) 法律や制度の上で



(7) 社会通念・習慣・しきたりなどで



(8) 社会全体として



男性  n = 248  
女性  n = 421

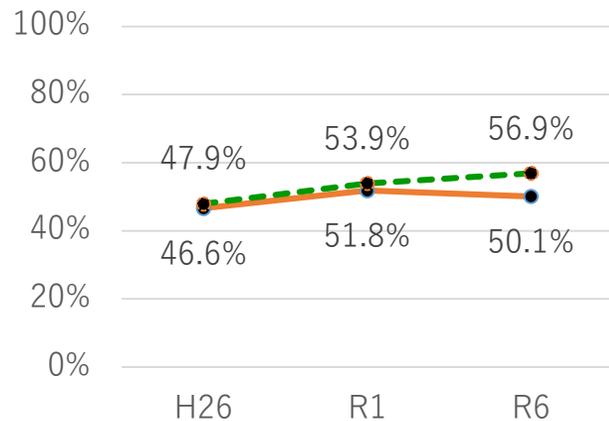
## 【一般】

問8 あなたの今の職場、あるいは、元職場では次の（１）～（９）について、性別によって差がある（あった）と思いますか。

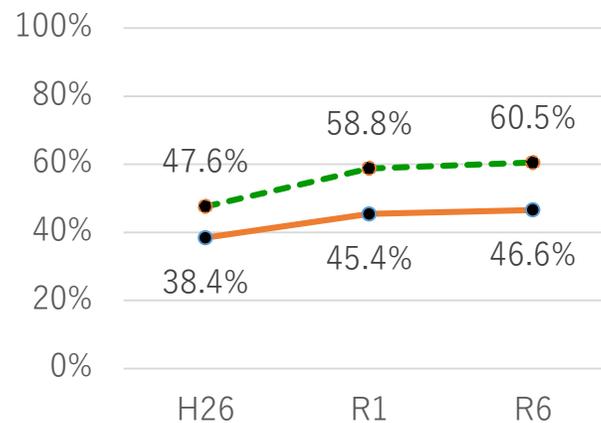
職業生活における全ての質問において、男性の方が男女「平等である」と回答した割合が高く、男女で回答に差が見られた。平等以外の回答において、（１）～（８）の間では「男性の方が優遇されている」と回答した割合が高いが、（９）のみ「女性の方が優遇されている」と回答した割合が高かった。

「平等である」と回答した人の割合 n = 680

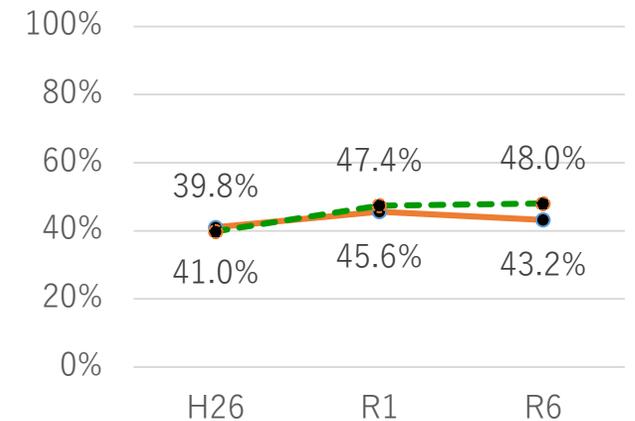
（１）募集・採用



（２）賃金

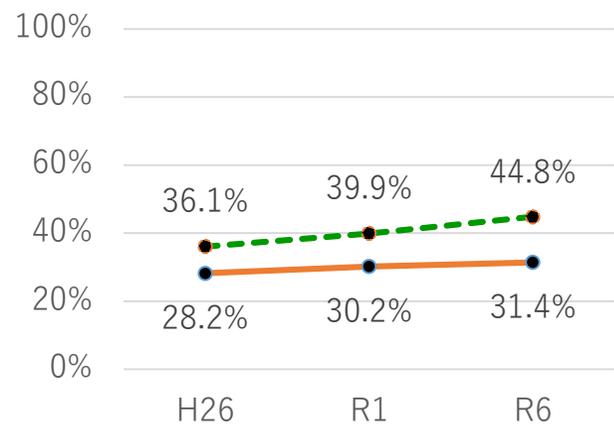


（３）業務（内容・責任）

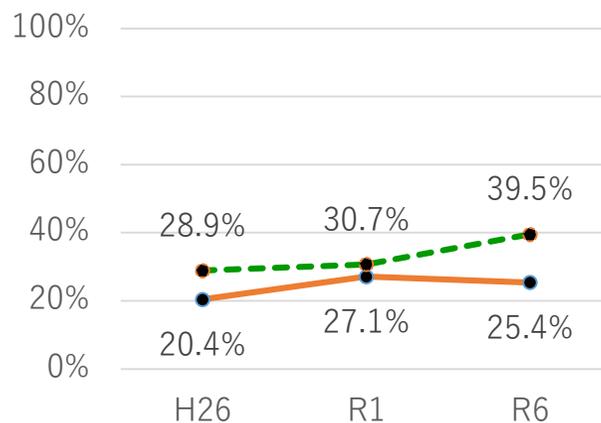


男性  n = 248  
女性  n = 421

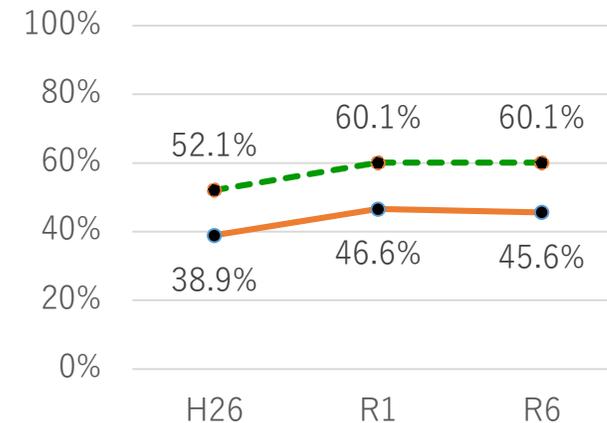
(4) 昇進・昇格



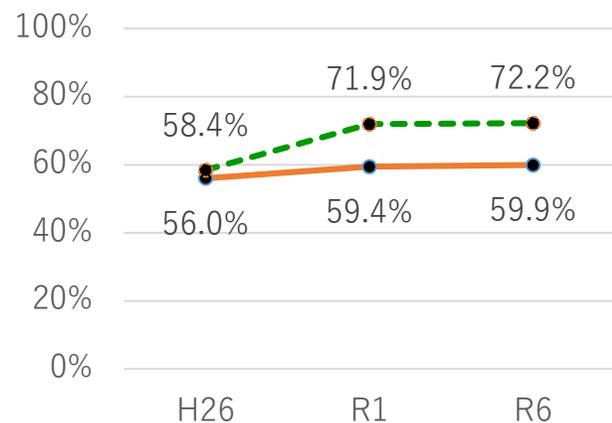
(5) 管理職への登用



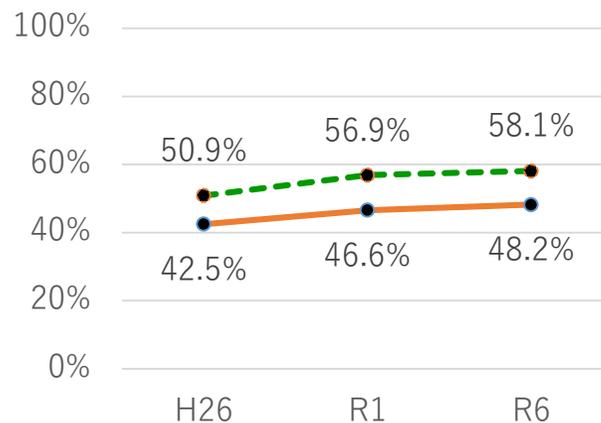
(6) 能力評価



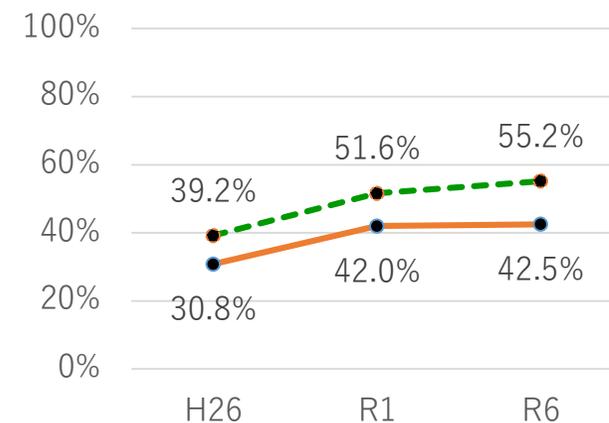
(7) 研修 (機会・内容)



(8) 働き続けやすさ



(9) 休暇の取得しやすさ (育児・介護休暇など)



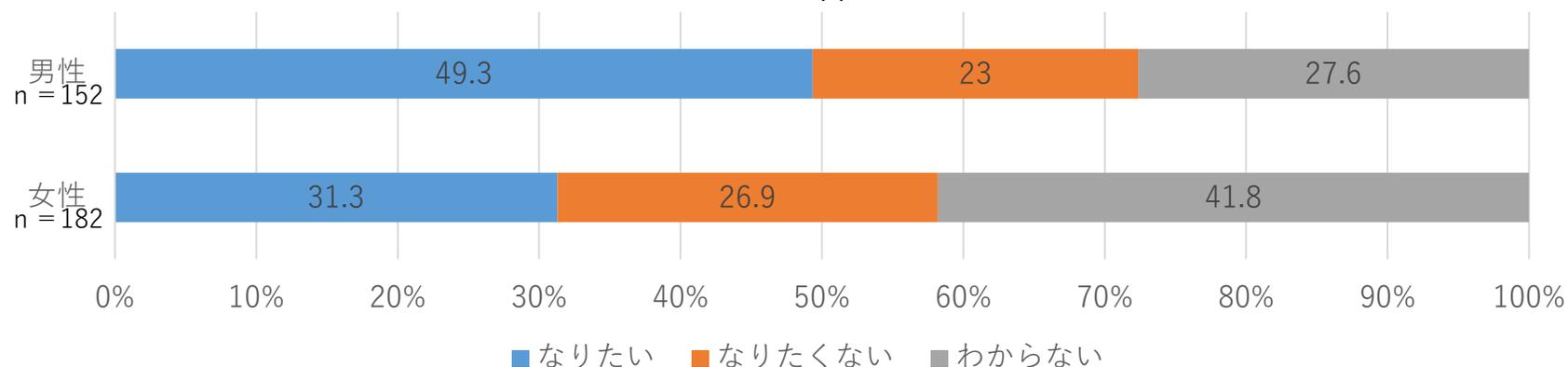
男性 —●— (n = 248)  
女性 —●— (n = 421)

## 【若年】

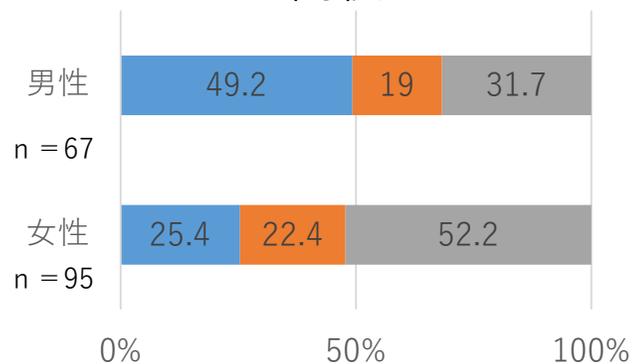
問4 将来、仕事において、組織の意思決定ができる職（経営者や組織の管理職）になりたいと思いますか。

男性は高校・大学・学生以外の半数近くが管理職になりたいと回答しているのに比べ、女性は管理職になりたいと回答した割合がどの年代も男性よりは少なく、高校生女性の半数が「わからない」と回答した。

全体



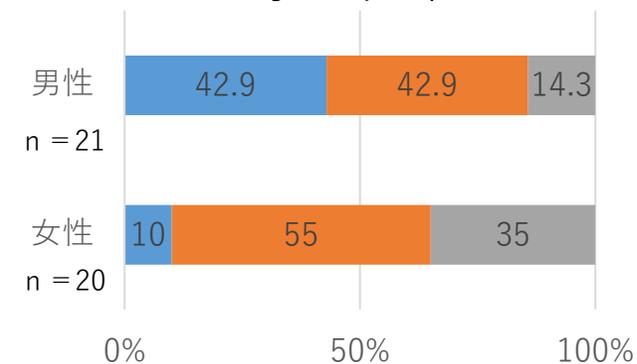
高校生



大学生



学生以外



# 役割分担について

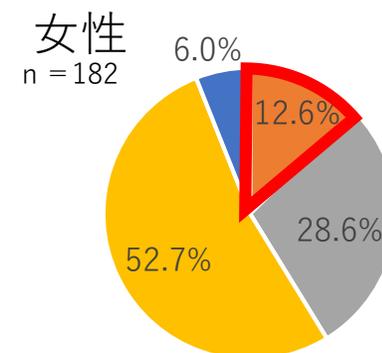
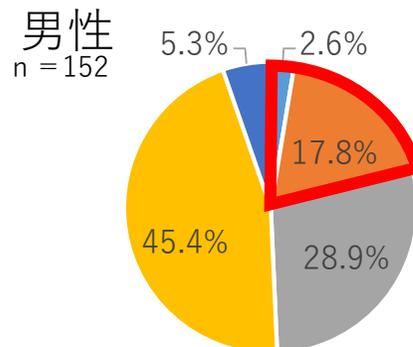
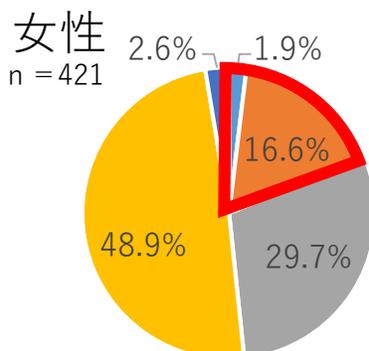
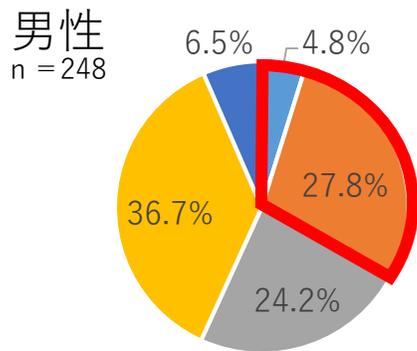
- ・「男は仕事、女は家庭」という男女の役割分担について「同感する」「どちらかといえば同感する」と回答した割合は一般男性32.6%、女性18.5%、若年男性20.4%、女性12.6%であった。（一般・若年問2）  
一方で、「子どもが小さいうちは、母親は仕事をしないで、育児に専念した方がよい」という考えについて「同感する」「どちらかといえば同感する」と回答した割合は一般男性56.4%、女性42.8%、若年男性45.4%、女性40.1%であった。（一般・若年問3）
- ・小学生・中学生の同じ質問では7割以上が「男の人と女の人が協力してするのがよい」と回答した。
- ・家事に費やす時間について、子どもがいる女性は平日・休日ともに「5時間以上」と回答した割合が最も高く、子どもがいない女性の場合は平日「30分以上1時間未満」休日「1時間以上2時間未満」が最も高く女性のなかでも差がみられた。子どもがいる男性は平日・休日ともに「30分以上1時間未満」が一番高く子どもがいない男性は平日「30分以上1時間未満」、休日「1時間以上2時間未満」が一番高かった。  
（一般問10）

【一般・若年】

問2 「男は仕事、女は家庭」という男女の役割分担について、あなたはどのように思いますか。

一般

若年

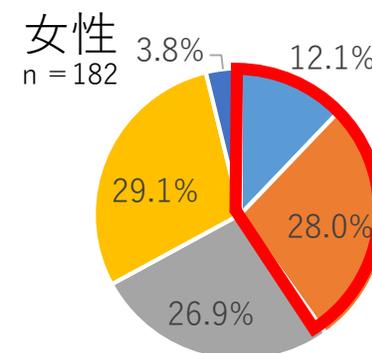
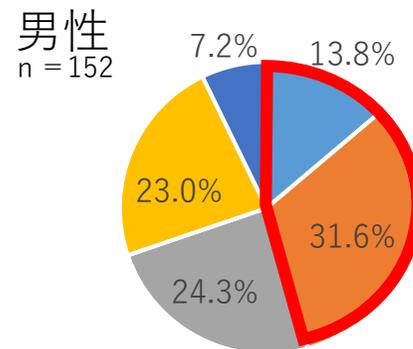
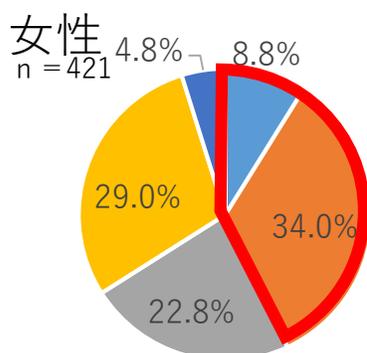
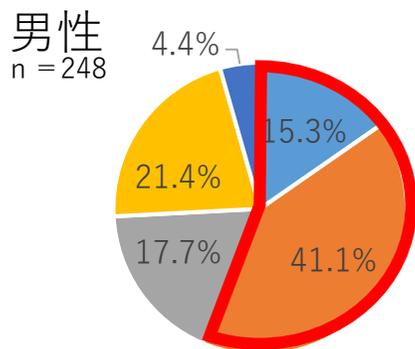


【一般・若年】

問3 「子どもが小さいうちは、母親は仕事をしないで、育児に専念したほうがよい」という考え方について、あなたはどのように思いますか。

一般

若年



■ 同感する ■ どちらかといえば同感する ■ どちらかといえば同感しない ■ 同感しない ■ わからない

【一般】

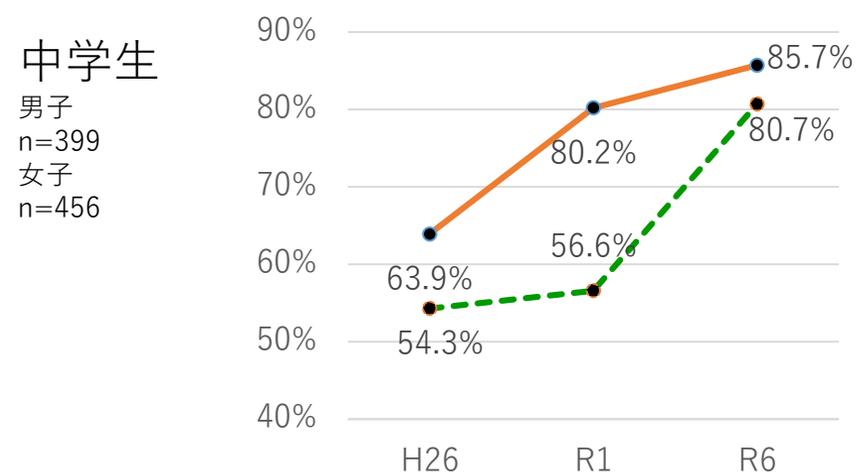
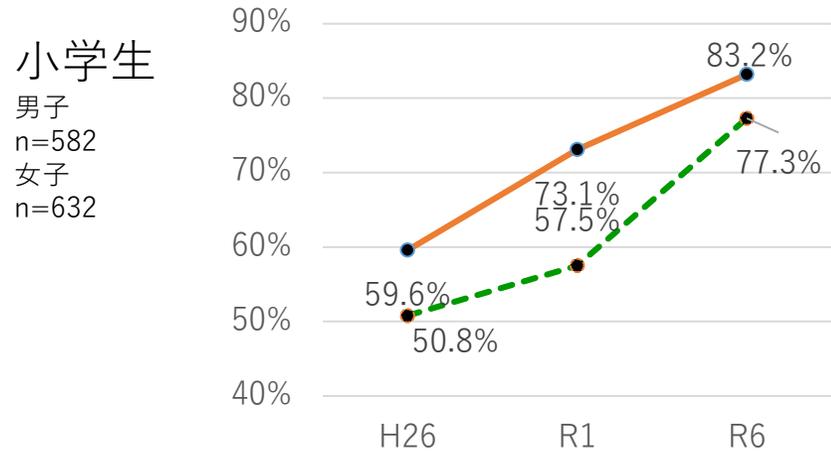
問10 あなたが1日のうちで家事に費やす平均時間はどの程度ですか。

平日	ほとんど ない	30分未満	30分以上1 時間未満	1時間以上 2時間未満	2時間以上 3時間未満	3時間以上 4時間未満	4時間以上 5時間未満	5時間以上
子どもがいる女性 n=290	1.4%	1.0%	4.1%	13.4%	16.6%	22.1%	12.8%	26.9%
子どもがいない女性 n=129	14.7%	11.6%	24.0%	23.3%	9.3%	9.3%	3.1%	3.1%
子どもがいる男性 n=162	22.8%	18.5%	24.1%	17.9%	6.8%	5.6%	1.2%	1.9%
子どもがいない男性 n=81	14.5%	25.3%	30.1%	20.5%	4.8%	1.2%	0.0%	2.4%

休日	ほとんど ない	30分未満	30分以上1 時間未満	1時間以上 2時間未満	2時間以上 3時間未満	3時間以上 4時間未満	4時間以上 5時間未満	5時間以上
子どもがいる女性 n=290	2.4%	0.7%	3.1%	10.7%	16.9%	21.0%	8.6%	31.7%
子どもがいない女性 n=129	11.6%	5.4%	17.8%	25.6%	19.4%	10.1%	3.1%	6.2%
子どもがいる男性 n=162	10.5%	17.3%	22.8%	19.8%	9.9%	6.2%	1.9%	9.3%
子どもがいない男性 n=81	6.0%	18.1%	24.1%	31.3%	8.4%	6.0%	0.0%	2.4%

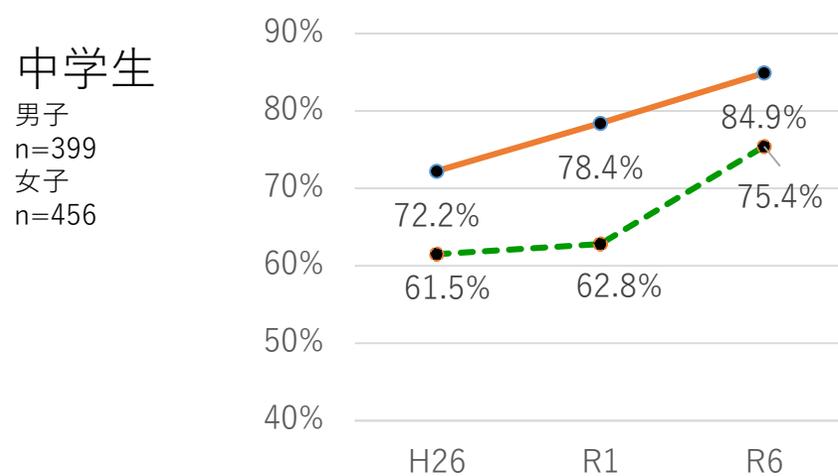
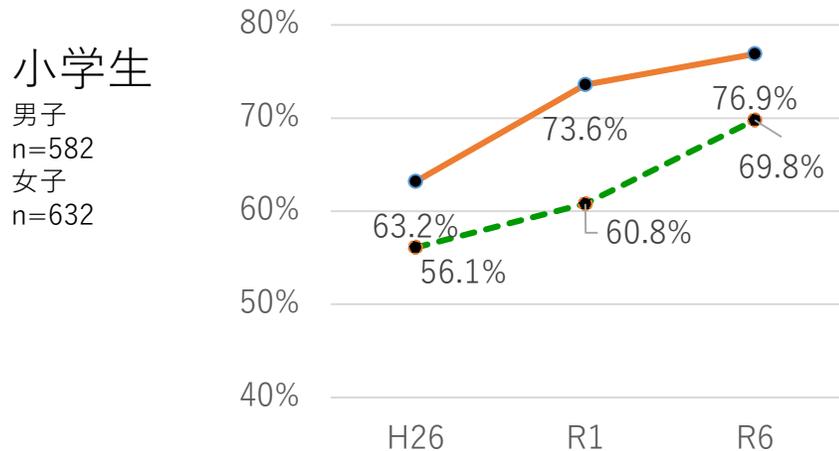
## 【小学生・中学生】

問3 あなたは、料理・そうじ・洗たくなどの家事は、だれがするのが一番よいと思いますか。



## 【小学生・中学生】

問4 あなたは、小さい子どものお世話は、だれがするのが一番よいと思いますか。



男子 ●---●--- 女子 ●---●--- 「男の人と女の人が協力してするのがいい」と回答した割合

# 暴力・人権について

- ・デートDVの認知度について、「意味を知っている」と回答した割合は中学生は35.5%、若年は60%であった。（中学生問9、若年問6）
- ・デートDVの関係性について、（1）「ラインなどのメッセージの返信が遅いといつも怒る」、（2）「だれとどこにいたのか、しつこく聞く」について、「へんだと思う」と回答した割合が男女ともに前回調査（R1）に比べて2割近く減少した。（中学生問8）
- ・1年以内の配偶者間の被害経験があると回答した割合は概ね男性10%、女性20%であった。暴力の種類が多かったのは男女ともに精神的暴力であった。（一般問14）
- ・交際相手からの被害経験があると回答した割合は概ね男性0.5%、女性10%であった。暴力の種類が多かったのは男性は身体的暴力、女性は性暴力であった。（若年問7）
- ・デートDV及びDV被害経験があると回答した人のうち、相談したと回答したのは一般は男性8.9%、女性27.6%、若年は男性28.6%、女性33.3%であった。（一般問15・若年問10）

【中学生】

問9 恋人同士の間で起きる暴力のことを「デートDV」といいます。なぐる、けるという体への暴力だけではなく、言葉や態度で怖がらせたり、行動を制限したりすることもデートDVです。あなたは、「デートDV」という言葉を知っていますか。

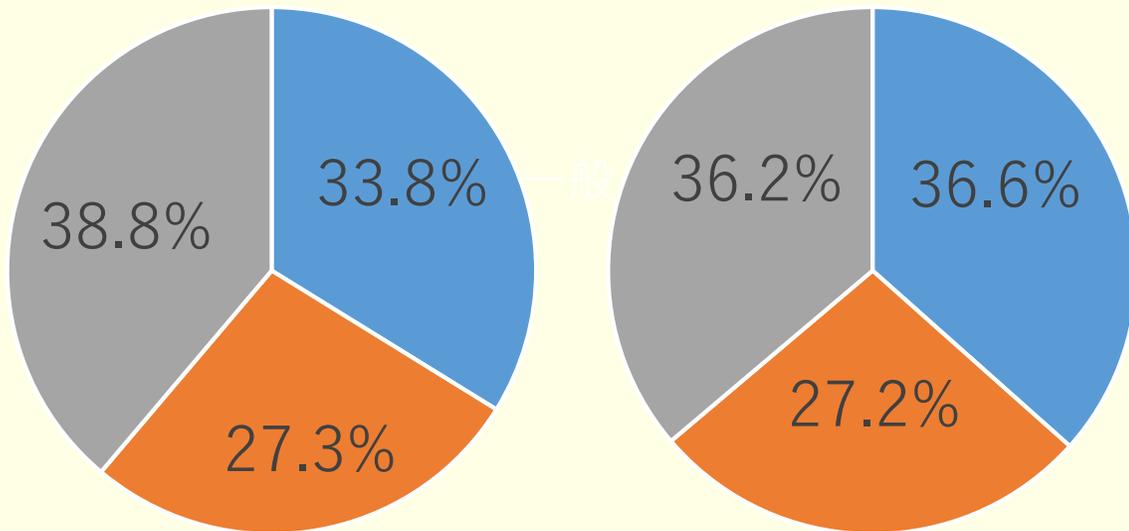
【若年】

問6 あなたは「デートDV」という言葉を知っていますか。

中学生

男子 n=399

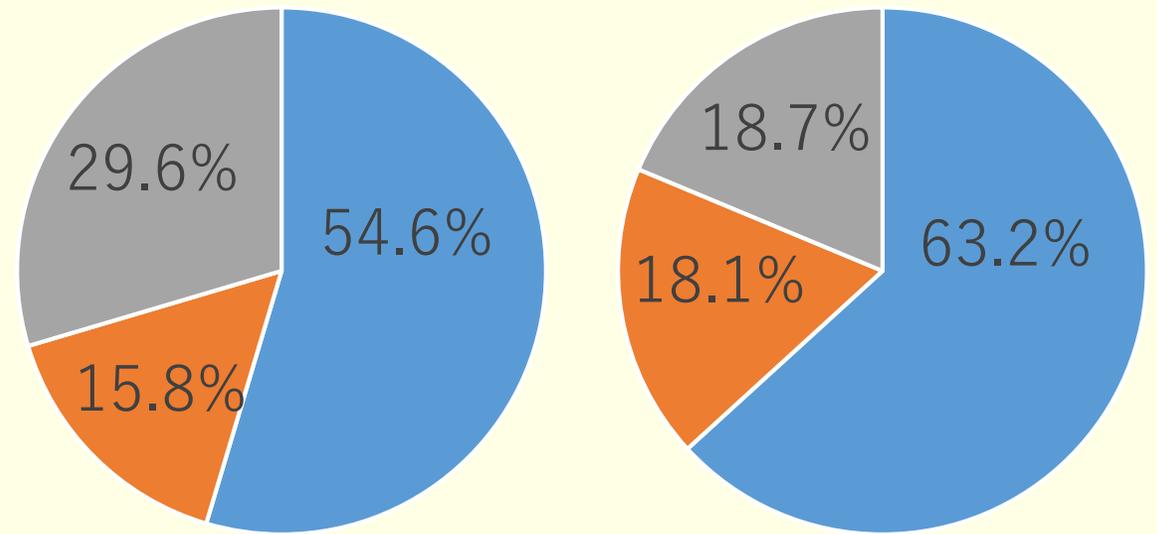
女子 n=456



若年

男性 n=152

女性 n=182



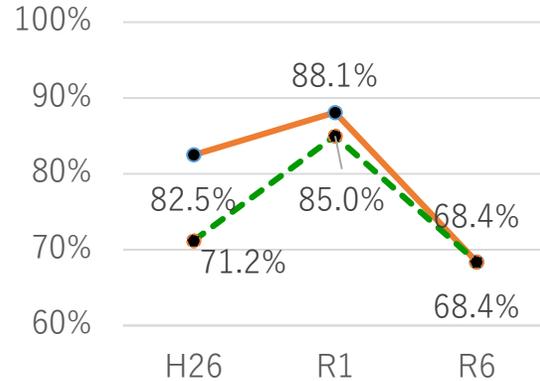
■意味を知っている ■聞いたことはあるが、意味は知らない ■知らない

【中学生】

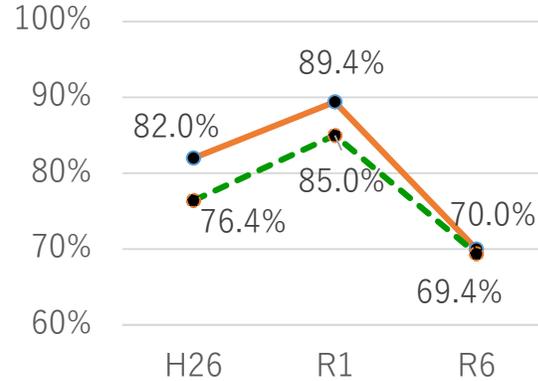
問8 恋人同士の間で次の(1)～(6)のようなことが行われた場合、その関係をどのように思いますか。

「へんだと思う」と回答した割合

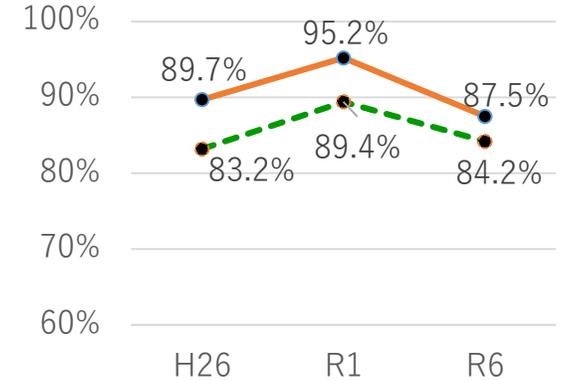
(1) ラインなどのメッセージの返信が遅いといつも怒る



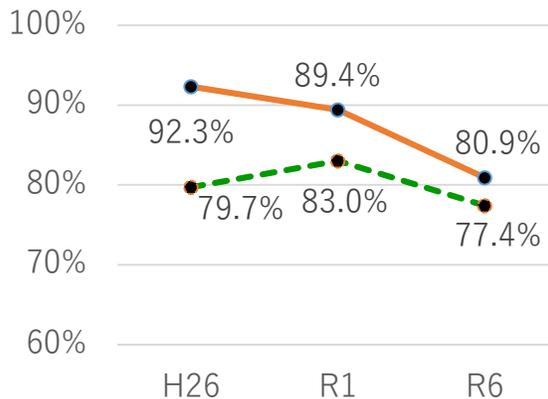
(2) だれとどこにいたのか、しつこく聞く



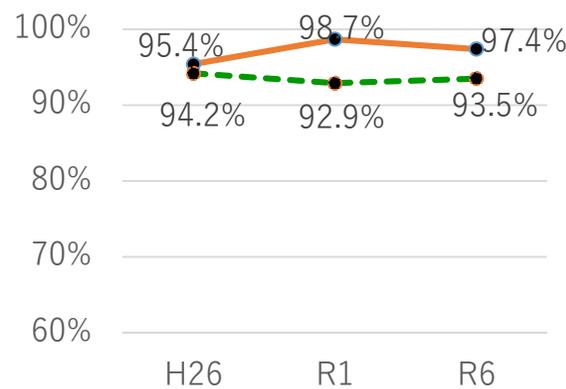
(3) 友人とのつきあいをいやがったり、禁止したりする



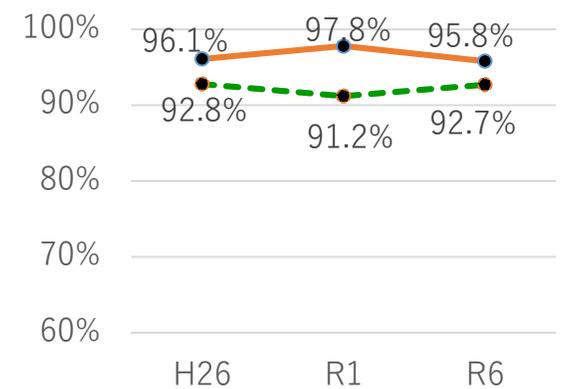
(4) 言うことを聞かないと不機嫌になる



(5) 相手がいやがっているのに無理やりキスしたり、体をさわったりする



(6) 別れ話をしてもしつこくつきまったり、いやな内容のメッセージを送ったりする

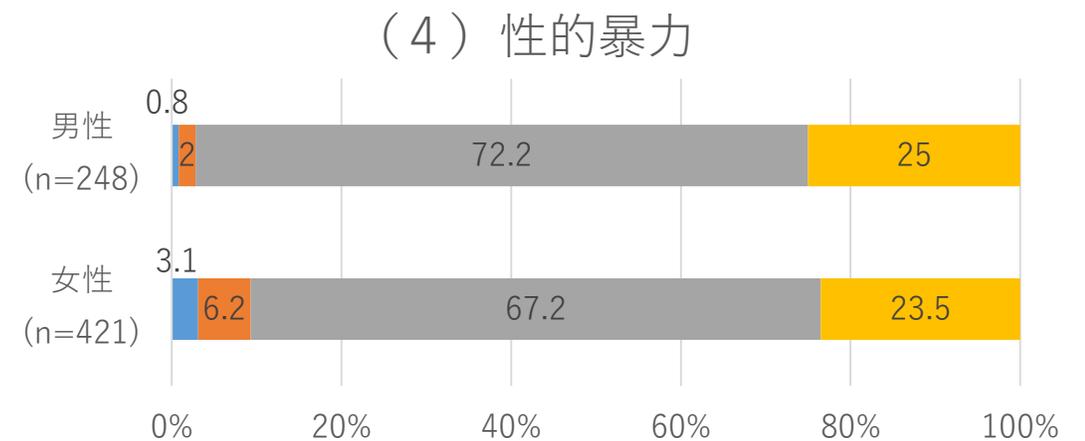
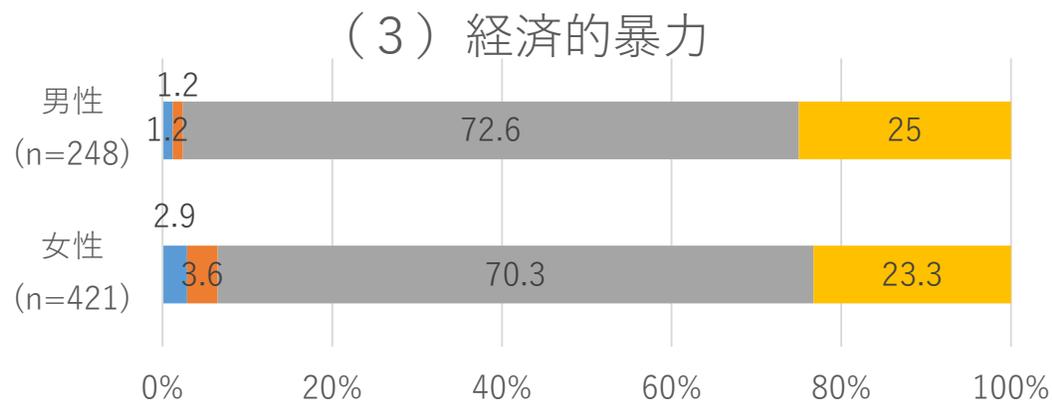
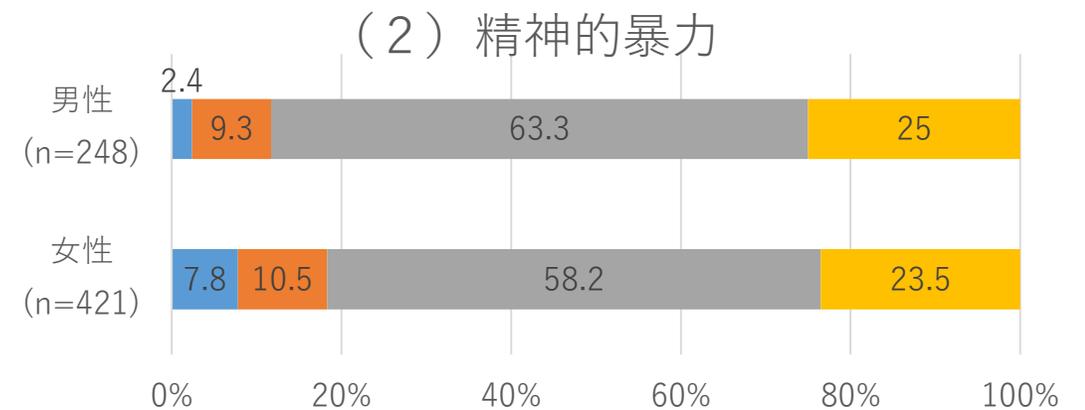
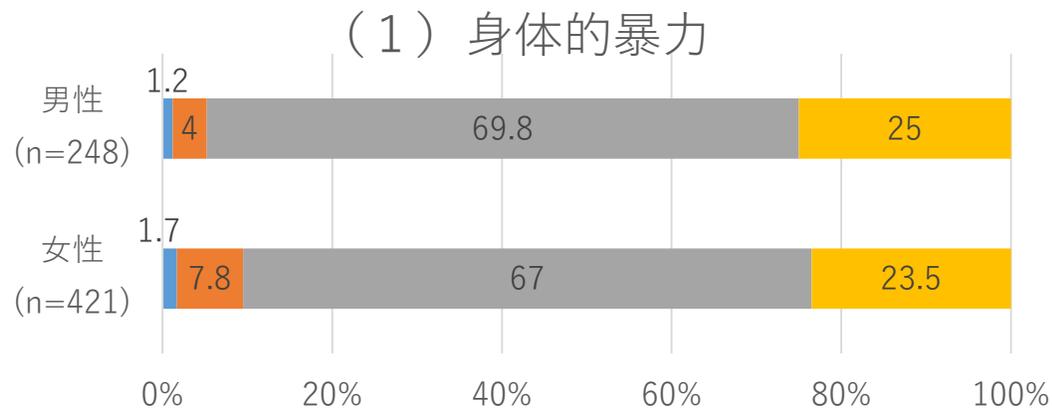


男性 n = 399      女性 n = 456

# 配偶者からの暴力の被害経験

## 【一般】

問14 あなたは、過去1年間に配偶者（別居中を含む）から、次の（1）～（4）のようなことをされたことがありますか。ここでの「配偶者」には、元配偶者（離別・死別した相手）も含まれます。

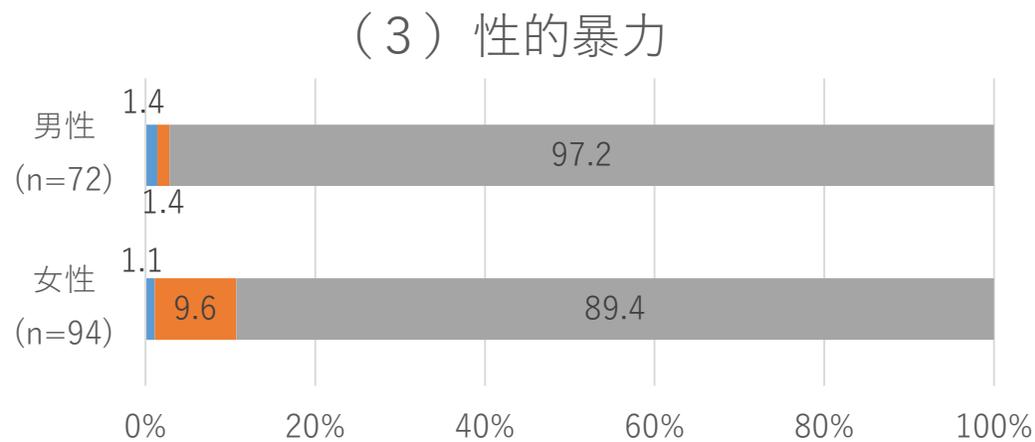
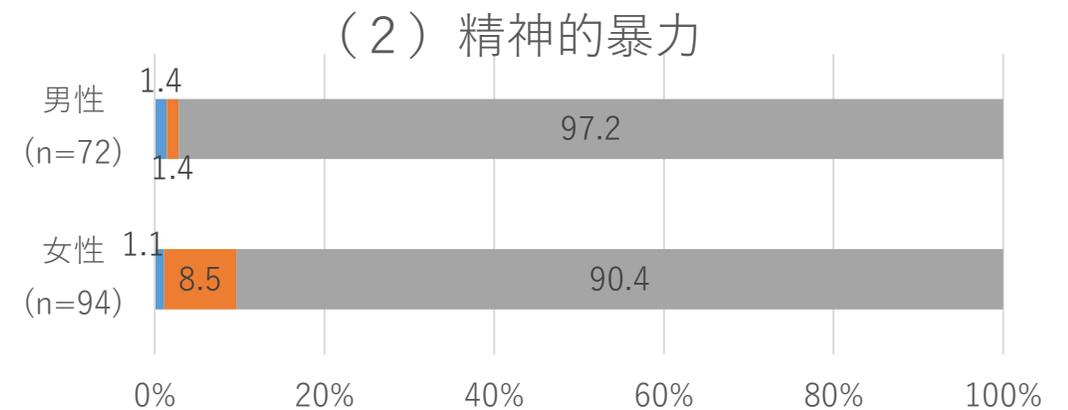
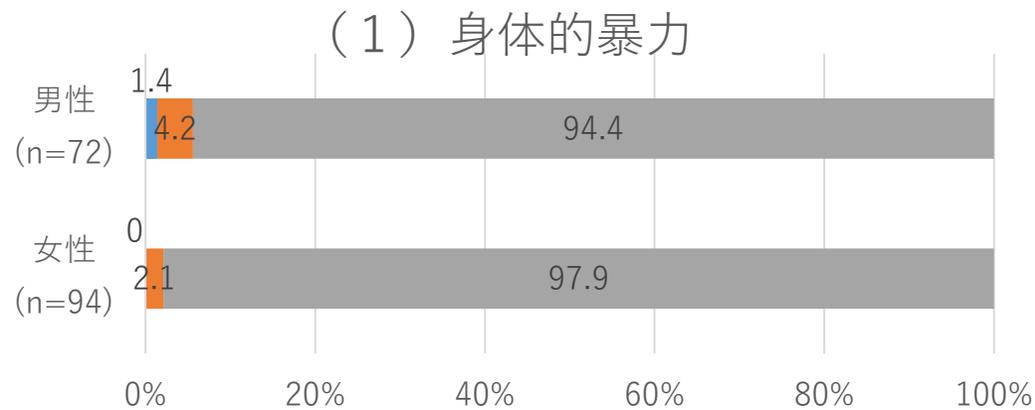


■ 何度もあった ■ 1～2回あった ■ まったくない ■ 無回答

# 交際相手からの暴力の被害経験

【若年】

問8 あなたはこれまでに交際相手から次の(1)～(3)のようなことをされたことがありますか。



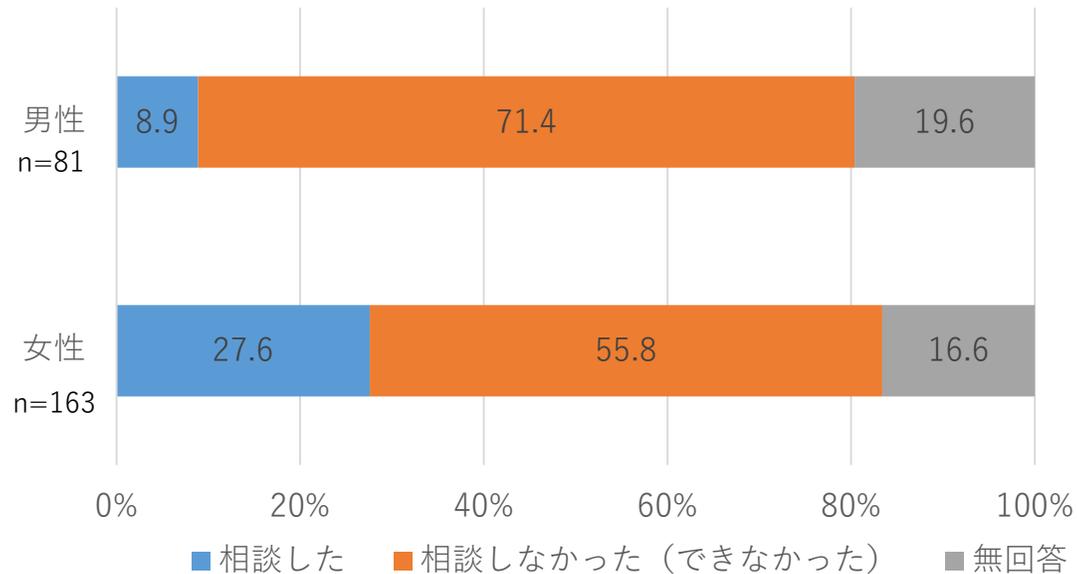
■ 何度もあった    ■ 1～2回あった    ■ まったくない

【若年】問10 【一般】問15

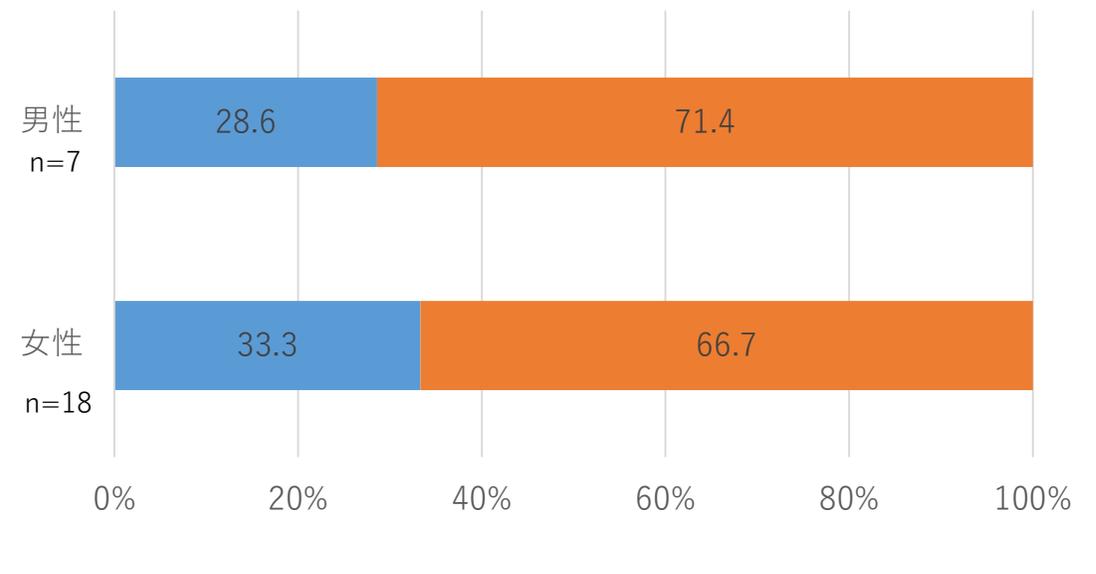
あなたは恋人や配偶者からの暴力を受けたときにどこ（だれ）かに相談しましたか。

※デートDV及びDV被害経験があると回答した人のみ回答

一般



若年



相談できなかった理由として一番多かったのは、「相談するほどのことではないと思ったから」、次いで「相談しても無駄だと思ったから」であった。

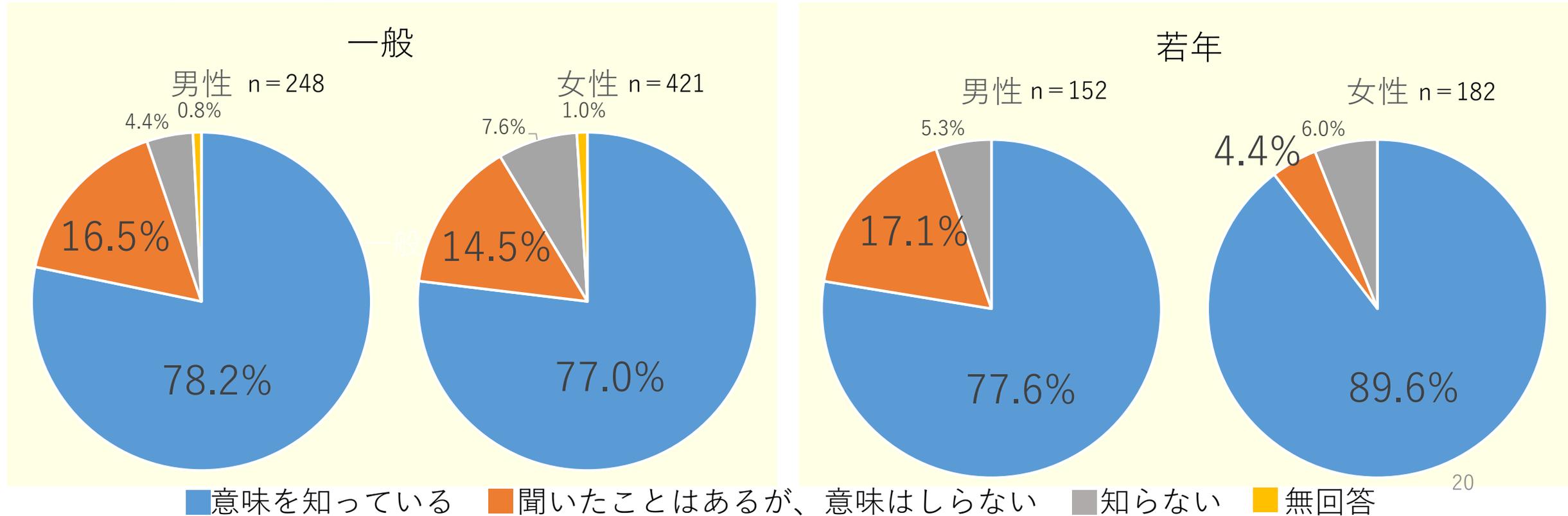
相談できなかった理由として一番多かったのは、「相談するほどのことではないと思ったから」、次いで「自分にも悪いところがあったから」であった。

# 性的マイノリティについて

【若年】問14 【一般】問19

あなたは性的マイノリティ（LGBTQ等）という言葉を知っていますか。

性的マイノリティ（LGBTQ等）の意味を知っていると回答した人は8割近い割合であった。知っている施策で一番多かったのは一般若年ともにパートナーシップ宣誓制度（一般：男性12.1%、女性16.9%、若年：男性12.2%、女性20.3%）であった。



# 困難な問題を抱える女性について

【若年】問16 【一般】問21

あなたは、困難な問題を抱える女性に対する支援として、どのような支援が効果的であると思いますか。

一般女性	若年女性
気軽に立ち寄れる居場所の提供	気軽に立ち寄れる居場所の提供
電話相談や面談	SNSによる相談
就労支援や生活保護受給手続きなどの支援	学校や家庭、医療機関等との連携による支援

多い順に上位3つを記載、複数回答

# 第3次男女共同参画計画改訂版指標達成率

市民アンケート調査結果の値が指標となっているもの（施策番号1～13）のうち、達成できた指標は7、一部達成できた指標は1、できなかった指標は5であった。

達成できた指標	
指標番号	指標の説明
3	「男女共同参画社会」という言葉を「見たり聞いたりしたことがある」人の割合
4	「女子差別撤廃条約」という言葉を「見たり聞いたりしたことがある」人の割合
5	暴力被害者に対して、正しい理解をしている人の割合
6	DVに対して、正しい理解をしている人の割合
9	過去1年間に配偶者から身体的暴力、精神的暴力、性的暴力のいずれかを受けたことがある人の割合（別居中の配偶者、元配偶者（離別、死別した相手）も含む）
12	「枚方市配偶者暴力相談支援センター「ひらかたDV相談室」」という言葉を「見たり聞いたりしたことがある」人の割合
13	「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）」という言葉を「見たり聞いたりしたことがある」人の割合

達成できなかった指標	
指標番号	指標の説明
1	社会全体で男女が平等であると思う人の割合
7	デートDVに対して、正しい理解をしている人の割合
8	「デートDV」という言葉を「知っている」又は「聞いたことがある」人の割合
10	交際相手からの暴力を経験した人の割合
11	DV被害を受けたときの相談窓口をひとつも知らない人の割合

一部達成できた指標	
指標番号	指標の説明
2	固定的役割分担について、同感しない人の割合

# 基本目標 1 人権尊重と男女共同参画への意識改革

指標 番号	指標の説明	目標	計画策定時 (H26年度)	中間見直し時 (R元年度)	アンケート 結果	評価	
						計画策定時 との比較	目標値との 比較
1	社会全体で男女が平等であると思う人の割合	増加	女性8.7% 男性21.7%	女性9.6% 男性23.4%	女性13.3% 男性20.6%	女性 増加 男性 減少	未達成
2①	「男は仕事、女は家庭」という考えに「同感しない」又は「どちらかといえば同感しない」人の割合	増加	女性56.0% 男性45.6%	女性66.4% 男性57.2%	女性78.6% 男性60.9%	女性 増加 男性 増加	達成
2②	「子どもが小さいうちは、母親は仕事をしないで、子どもの世話をしたほうがよい」という考えに「同感しない」又は「どちらかといえば同感しない」人の割合	増加	女性23.9% 男性18.9%	女性38.2% 男性28.8%	女性51.8% 男性39.1%	女性 増加 男性 増加	達成

指標 番号	指標の説明	目標	計画策定時 (H26年度)	中間見直し時 (R元年度)	アンケート結 果	評価	
						計画策定時 との比較	目標値との 比較
2③	料理、掃除、洗濯などの家事を「男の人と女の人が協力してするのがよい」と考える人の割合 ※R6年度調査では若年は「男は仕事、女は家庭」という考えに「同感しない」又は「どちらかといえば同感しない」人の割合	増加	<小学生> 女子59.6%・男子50.8% <中学生> 女子63.9%・男子54.3% <高校生> 女子78.9%・男子57.5% <大学生> 女性86.2%・男性64.8%	<小学生> 女子73.1%、男子57.5% <中学生> 女子80.2%、男子56.6% <高校生> 女子81.9%、男子68.3% <大学生> 女性92.1%、男性81.9%	<小学生> 女子83.2%、男子77.3% <中学生> 女子85.7%、男子80.7% <若年> 女性81.3%、男性74.3%	<小学生> 女子 増加 男子 増加 <中学生> 女子 増加 男子 増加 <若年>※ 女性 減少 男性 増加	<小学生> 達成 <中学生> 達成 <若年> 未達成
2④	子どもが小さいときの子育てを「男の人と女の人が協力してするのがよい」と考える人の割合 ※R6年度調査では若年は「子どもが小さいうちは、母親は仕事をしないで、子どもの世話をしたほうがよい」という考えに「同感しない」又は「どちらかといえば同感しない」人の割合	増加	<小学生> 女子63.2%・男子56.1% <中学生> 女子72.2%・男子61.5% <高校生> 女子83.1%・男子66.5% <大学生> 女性87.2%・男性73.6%	<小学生> 女子73.6%、男子60.8% <中学生> 女子78.4%、男子62.8% <高校生> 女子85.8%、男子73.2% <大学生> 女性90.9%、男性81.9%	<小学生> 女子76.9%、男子69.8% <中学生> 女子84.9%、男子75.4% <若年> 女性56%、男性47.3%	<小学生> 女子 増加 男子 増加 <中学生> 女子 増加 男子 増加 <若年>※ 女性 減少 男性 減少	<小学生> 達成 <中学生> 達成 <若年> 未達成
2⑤	お金を稼ぐ仕事を「男の人と女の人が協力してするのが良い」と考える人の割合 ※R6年度調査では若年は未実施	増加	<小学生> 女子47.1%・男子35.2% <中学生> 女子54.6%・男子32.7% <高校生> 女子66.5%・男子37.2% <大学生> 女性73.4%・男性40.8%	<小学生> 女子63.5%、男子43.8% <中学生> 女子66.1%、男子45.1% <高校生> 女子74.4%、男子51.3% <大学生> 女性78.3%、男性62.7%	<小学生> 女子75.6%、男子66.2% <中学生> 女子76.8%、男子59.9%	<小学生> 女子 増加 男子 増加 <中学生> 女子 増加 男子 増加	達成

※R6年度調査では高校生と大学生を合わせて若年層として調査を行ったため、高校生、大学生の平均値と比較し評価している。

指標 番号	指標の説明	目標	計画策定時 (H26年度)	中間見直し 時 (R元年度)	アンケート 結果	評価	
						計画策定時 との比較	目標値との 比較
3	「男女共同参画社会」という言葉を「見たり聞いたりしたことがある」人の割合	増加	女性54.3% 男性69.3%	女性61.5% 男性69.1%	女性65.8% 男性79.4%	女性 増加 男性 増加	達成
4	「女子差別撤廃条約」という言葉を「見たり聞いたりしたことがある」人の割合	増加	女性42.3% 男性50.7%	女性49.7% 男性50.0%	女性50.6% 男性57.3%	女性 増加 男性 増加	達成

## 基本目標 2 男女共同参画を阻害する暴力の根絶

指標 番号	指標の説明	目標	計画策定時 (H26年度)	中間見直し時 (R元年度)	アンケート 結果	評価	
						計画策定時 との比較	目標値との 比較
5①	「暴力を受けている人は逃げようと思えば、いつでも逃げ出せるはず」と考える人の割合	減少	女性16.1% 男性22.3%	女性19.5% 男性11.6%	女性13.3% 男性10.5%	女性 減少 男性 減少	達成
5②	「暴力をふるわれた人にも、何らかの原因があるので、暴力をふるう人を一方的には責められない」と考える人の割合	減少	女性10.8% 男性19.2%	女性11.6% 男性20.0%	女性7.8% 男性12.5%	女性 減少 男性 減少	達成
6①	夫婦間における「なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたり、ひきずりまわしたりする」行為を「どんな場合でも暴力にあたると思う」人の割合	増加	女性92.0% 男性88.7%	女性96.5% 男性93.8%	女性97.4% 男性95.6%	女性 増加 男性 増加	達成

指標 番号	指標の説明	目標	計画策定時 (H26年度)	中間見直し時 (R元年度)	アンケート 結果	評価	
						計画策定時 との比較	目標値との 比較
6②	夫婦間における「大声でどなったり、なぐるふりをして相手を脅したりする」行為を「どんな場合でも暴力にあたると思う」人の割合	増加	女性68.9% 男性53.8%	女性74.8% 男性65.9%	女性83.1% 男性77.4%	女性 増加 男性 増加	達成
7①	男女交際について「相手がいやがっているのに無理やりキスしたり、体をさわったりする」行為を「へんだと思う」人の割合 ※R6年度調査では若年は恋人同士の間で「相手の合意を得ないで、一方的に性行為を行う」のを「どんな場合でも暴力にあたると思う」人の割合	増加	<中学生> 女子95.4% 男子94.2% <高校生> 女子96.4% 男子91.4%	<中学生> 女子98.7% 男子92.9% <高校生> 女子96.9% 男子94.6%	<中学生> 女子97.4% 男子93.5% <若年> 女性93.4% 男性90.1%	<中学生> 女子 増加 男子 減少 <若年> 女子 減少 男子 減少	未達成
7②	男女交際について「友人とのつきあいをいやがったり、禁止したりする」行為を「へんだと思う」人の割合 ※R6年度調査では若年は配偶者間で「実家の親、兄弟・姉妹友人との付き合いをいやがったり監視したり、外出を制限したりする」のを「どんな場合でも暴力にあたると思う」人の割合	増加	<中学生> 女子89.7% 男子83.2% <高校生> 女子92.9% 男子87.2%	<中学生> 女子95.2% 男子89.4% <高校生> 女子91.7% 男子89.7%	<中学生> 女子87.5% 男子84.2% <若年> 女性78.6% 男性64.5%	<中学生> 女子 減少 男子 増加 <若年> 女子 減少 男子 減少	未達成

指標 番号	指標の説明	目標	計画策定時 (H26年度)	中間見直し時 (R元年度)	アンケート 結果	評価	
						計画策定時 との比較	目標値との 比較
8	「デートDV」という言葉を「知っている」又は「聞いたことがある」人の割合	中学生 80.0% 高校生 100.0% 大学生 77.0%	<p>&lt;中学生&gt; 女子32.0% 男子19.8%</p> <p>&lt;高校生&gt; 女子89.0% 男子77.1%</p> <p>&lt;大学生&gt; 女性75.5% 男性64.8%</p>	<p>&lt;中学生&gt; 女子59.1% 男子44.2%</p> <p>&lt;高校生&gt; 女子89.0% 男子85.8%</p> <p>&lt;大学生&gt; 女性70.8% 男性57.2%</p>	<p>&lt;中学生&gt; 女子63.8% 男子61.1%</p> <p>&lt;若年&gt; 女性81.3% 男性70.4%</p>	<p>&lt;中学生&gt; 女子 増加 男子 増加</p> <p>&lt;若年&gt;※ 女性 減少 男性 減少</p>	<p>&lt;中学生&gt; 未達成</p> <p>&lt;若年&gt; 未達成</p>
9	過去1年間に配偶者から身体的暴力、精神的暴力、性的暴力のいずれかを受けたことがある人の割合（別居中の配偶者、元配偶者（離別、死別した相手）も含む）	減少	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体的暴力 女性12.0% 男性9.0%</li> <li>・精神的暴力 女性17.1% 男性12.7%</li> <li>・性的暴力 女性9.7% 男性3.9%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体的暴力 女性9.6% 男性11.7%</li> <li>・精神的暴力 女性19.2% 男性17.5%</li> <li>・性的暴力 女性11.5% 男性2.9%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体的暴力 女性9.5% 男性5.2%</li> <li>・精神的暴力 女性18.3% 男性11.7%</li> <li>・性的暴力 女性9.3% 男性2.8%</li> </ul>	減少	達成

※R6年度調査では高校生と大学生を合わせて若年層として調査を行ったため、高校生、大学生の平均値と比較し評価している。28

指標 番号	指標の説明	目標	計画策定時 (H26年度)	中間見直し時 (R元年度)	アンケート結 果	評価	
						計画策定時 との比較	目標値と の比較
10	交際相手からの暴力を経験した人の割合	減少	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体的暴力 ＜高校生＞ 女子3.3%・男子7.6%</li> <li>＜大学生＞ 女子15.4%・男子13.4%</li> <li>・精神的暴力 ＜高校生＞ 女子8.2%・男子8.2%</li> <li>＜大学生＞ 女子23.1%・男子16.5%</li> <li>・性的暴力 ＜高校生＞ 女子7.5%・男子3.0%</li> <li>＜大学生＞ 女子12.8%・男子13.4%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体的暴力 ＜高校生＞ 女子0.0%、男子3.3%</li> <li>＜大学生＞ 女子5.6%、男子5.3%</li> <li>・精神的暴力 ＜高校生＞ 女子4.5%、男子6.7%</li> <li>＜大学生＞ 女子11.3%、男子9.5%</li> <li>・性的暴力 ＜高校生＞ 女子6.4%、男子2.5%</li> <li>＜大学生＞ 女子11.8%、男子4.3%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体的暴力 女性2.1% 男性5.6%</li> <li>・精神的暴力 女性9.6% 男性2.8%</li> <li>・性的暴力 女性10.7% 男性2.8%</li> </ul>	増加※	未達成
11	DV被害を受けたときの相談窓口をひとつも知らない人の割合	0%	女性5.7% 男性5.4%	女性4.4% 男性2.5%	女性1.7% 男性1.6%	減少	未達成
12	「枚方市配偶者暴力相談支援センター「ひらかたDV相談室）」という言葉を見たり聞いたりしたことがある」人の割合	50%	女性34.2% 男性20.0%	女性28.9% 男性17.5%	女性59.5% 男性58.1%	増加	達成

※R6年度調査では高校生と大学生を合わせて若年層として調査を行ったため、高校生、大学生の平均値と比較し評価している。29

指標 番号	指標の説明	目標	計画策定時 (H26年度)	中間見直し 時 (R元年度)	アンケート 結果	評価	
						計画策定時 との比較	目標値との 比較
13	「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）」という言葉を見たり聞いたりしたことがある」人の割合	増加	女性87.7% 男性88.2%	女性89.6% 男性89.7%	女性89.5% 男性91.9%	増加	達成